

慶祿記

目錄

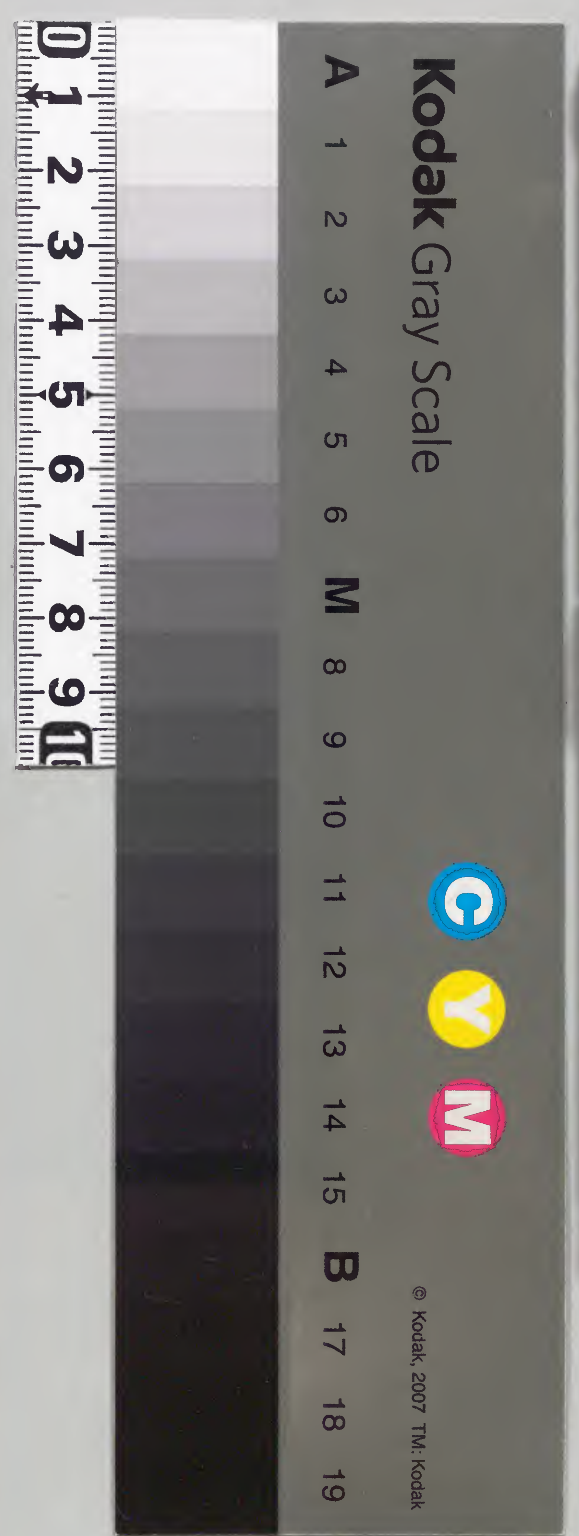
本書類今略記而互有出入但
 此書以先出
 由之及以全之祿共五本

87

庫	文	閣	内
一五九函	一三五架	三二五冊	和書類

内閣文庫	
番號	和 33235
冊數	(1)
函號	150 87

150-87



度祿記惣目錄

卷ノ一

具福寺願書附收之文

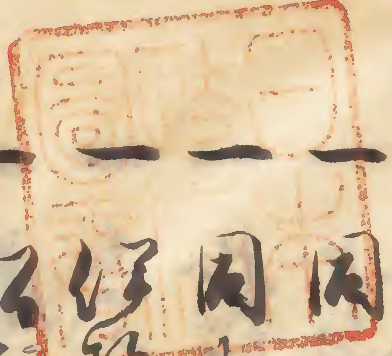
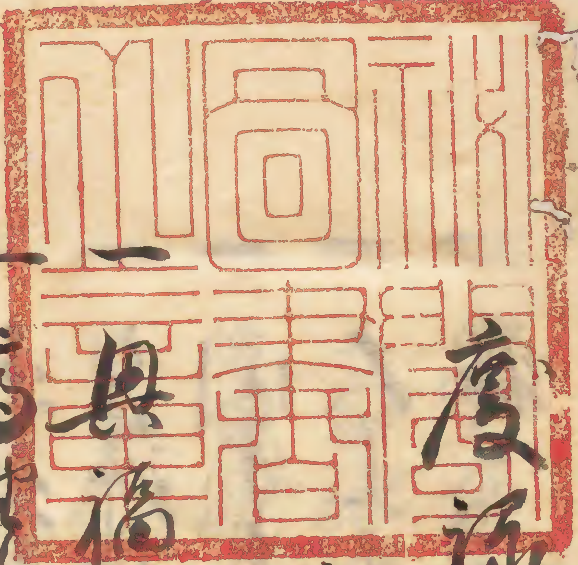
高野山奉願書附收之文

因知行目錄之文

因寺中法度之文

伊勢美光院御書之文

石部也御書之文



一 成善提院法度記文
 一 二升年法書記文
 一 卷定名山法書記文
 一 中村伯耆守相果以下記文
 一 東年法度記文
 一 高野山法度記文
 一 園東志玄諸寺家中記文
 一 大土寺記文
 一 龍馬寺記文

一 東年法度記文
 一 高野山記文
 一 高野山台也山記文
 一 日光山法度記文
 一 知是院吳利福河寺記文
 一 高野山法度記文
 一 武家諸法度記文
 一 戶隱山記文
 一 下曾洞宗記文

一 加茂院法与代智(何)知改
 一 宿之院河与代智(何)同
 一 抚宁寺法与(何)改
 一 具福寺同
 一 长吉寺同
 一 美乐天古宗同
 一 智福院同
 一 之实院同
 一 同

一 公彰院同
 一 物译(何)改
 一 石译(何)法度(何)改
 一 美乐天古宗同
 一 老中(何)诸没人(何)改
 一 武别(何)法(何)寺(何)改
 一 自(何)前(何)法(何)寺(何)改
 一 名(何)改(何)改
 一 因(何)自(何)改(何)改

中上因行

卷ノ二

法書活中ノ高札文

松平下北之屋家在中ノ高札文

上以孫命山麓百手活中ノ高札文

龍泉寺高札文

大坂法陣ノ高札文

因沙軍法

因沙軍法

大坂法陣ノ高札文

因沙軍法

因沙軍法

因沙軍法

因沙軍法

因沙軍法

因沙軍法

因沙軍法

一 妙心寺因行

一 永平寺因行

一 徳持寺因行

一 高野山因行

一 上徳女志釋教因行 至河内傳目

一 因上徳院因行 中初因行

一 因上徳院因行 中初因行

一 因上徳院因行 中初因行

卷ノ之

一 諸宗新法之因行目録

一 由甲斐代新法之因行目録

一 由甲斐代新法之因行目録

一 由甲斐代新法之因行目録

一 武蔵所新法之因行目録

一 甲斐所新法之因行目録

一 由甲斐代新法之因行目録

一 長谷寺新法之因行目録

一 知徳院因行

春日社殿之清集百支

因中知由之支

高野山寺中法乃之支

松本寺之清集百支

聖宿山志保山院之清集百支

しんせうしんせう

伊勢志保知進之清集百支

子書之事

村之因防之知由之支

因村之城源丹後之清集百支

因中知由之支

己之清集百支

旅瑞久之清集百支

少素若之清集百支

子之清集百支

因中

因東志保古源清集百支

福清之清集百支

一 同上使元^に自^に元^に中^に相^に後^に元^に事^に
 一 同^に巡^に國^に城^に之^に上^に清^に年^に同^に事^に
 一 同^に安^に友^に對^に馬^に之^に水^に兵^に友^に事^に更^に之^に上^に事^に
 一 同^に許^に准^に同^に事^に
 一 同^に燕^に劉^に城^に法^に同^に上^に者^に一^に法^に牙^に
 一 同^に許^に准^に同^に事^に
 一 重^に之^に屋^に事^に更^に之^に上^に奉^に書^に之^に更^に
 一 同^に新^に
 一 同^に之^に若^に有^に邪^に之^に大^に坂^に之^に相^に違^に之^に事^に

一 同^に自^に大^に坂^に邪^に之^に相^に違^に之^に事^に
 一 同^に道^に中^に之^に諸^に役^に人^に中^に海^に法^に人^に馬^に之^に送^に
 一 之^に事^に之^に更^に

卷ノ四

一 全^に代^に院^に之^に許^に事^に之^に更^に
 一 人^に堂^に之^に長^に子^に之^に事^に之^に更^に等^に之^に所^に有^に之^に元^に
 一 日^に光^に之^に社^に之^に所^に有^に之^に更^に
 一 諸^に之^に之^に社^に之^に所^に有^に之^に更^に
 一 實^に之^に所^に有^に之^に院^に之^に所^に有^に之^に事^に

一 曹洞宗法度
 一 敎中法法度
 一 自松前清尊上人并江尾道中
 一 法大石
 一 因自宇部文江尾上人親入新編
 一 修習
 一 寅年法
 一 大坂法

一 女院御新
 一 同奉書
 一 卷ノ五
 一 増
 一 日光山
 一 増
 一 同寺

一 步務制以事

一 家光之法皇孫之長位事(向)也
法令之事

一 五社之明神社(向)所由也

一 諏訪之明神社(向)所由也

一 河内(向)所由也(向)所由也

一 伊賀(向)所由也(向)所由也

一 志新(向)所由也(向)所由也

一 世心(向)所由也(向)所由也

一 武列(向)所由也(向)所由也

一 今代(向)所由也(向)所由也

一 伊賀(向)所由也(向)所由也

一 同内(向)所由也(向)所由也

卷ノ六

一 評定(向)所由也(向)所由也

一 比叡(向)所由也(向)所由也

一 吉村(向)所由也(向)所由也

一 法(向)所由也(向)所由也

一 二條沙書瓦也（沙系目事）
 一 同下知收之事
 一 日光山神社系村沙條目事
 一 同下知收之事
 一 同瓦書之事
 一 同石石中火是等之石石殿の系は瓦
 一 同沙系目事

一 同沙系目事
 一 同神尾内系
 一 同松系和系
 一 同牧比目
 一 同石代中

一 信樂交野院上法系事

卷ノ七

一 東叡山依方附收之事

一 因知行目錄

一 護列之能山社依方附收之事

一 武列星地山堂等事依方附收之事

一 冬列瀧山寺依方附收之事

一 西典厩家后上法系目支

一 因知行二通

一 高野山寺中法教支

一 因知行二通

一 因知行目錄

一 因行人方法法教事

一 因依流中法法教事

一 因知行

一 松平千代熊上法系目支

一 長門國法目支中上法條目支

一 西丸山著元上法條目支

一切支丹家ノ法律及事

卷ノ八

大坂城ノ法律及事

同ノ知事ノ事

東郷山ノ法律及事

同ノ知事ノ事

禁裏守禮ノ法律及事

新溪州ノ法律及事

同ノ知事ノ事

吉利支丹家ノ法律及事

新漢ノ法律及事

諸法及ノ法律及事

澤場ノ法律及事

日光山ノ法律及事

同ノ知事ノ事

卷ノ九

河内坂ノ法律及事

後府ノ法律及事

田中知波

盜賊人法穿擊成竹言礼交

荒井実所記法條目交

譯場言礼交

田中

江戶山王法條目

雄子揚氏其尾所記傳事

伊智田交言礼交

大事言礼交

洋水有譯場言礼交

切支丹家所記法條目

卷ノ十

實所女子歌の書載言礼

松平忠千代法條目交

武家法條目

田中

人賣買法條目交

振舞法條目

高野山年中法度

因御系目事

卷ノ十一

自大月有之相渡之書度

冥乐中巡見之 修有別之書度

儒者流之 修有書之度

切支丹家之 修有書之度

御書官之 修有書之度

諸宗法或之 修有書之度

因中知收之事

諸社之 修有書之度

系後冊後之 修有書之度

因大坂之 修有書之度

法大石之 修有書之度

新酒藏之 修有書之度

新法法之 修有書之度

諸國巡見之 修有書之度

因以

因以

因以

因海色之乳之沙菓又之夏

卷ノ十二

大車有陰約之少系同子

婦要之長之卵陰約之四年有事

在之新之因以之

系於中國寺中知此之

自大有月之也波之書之夏

坡町在少控所新吉系止之少系同夏

禁裏地洞寺新方守濱之因之少系同

停飛内之夏之夏雨作穢淨淨之夏之夏

知此之

法系稱之夏之夏知此之

因以

松本河原之夏之夏知此之

因河原之夏之夏知此之

夏之夏

人卷山天台志云 淨海院 院目
卷ノ十之

中世綱定乃美心神之社人淨海院
沙條目支

那禮家門 院目 淨海院 院目支

諸府以城代書院者以院定書院人
之知收院支

大寺 院目 淨海院 院目支

松藏書院武吉院痛院 院目 院目支

淨海院 院目支

増寺入院院之院目 院目支

宗法院 院目支

院目

本院 院目支

院目支

院目支

院目

本院 院目支

才進山清江之殿舟山系同車

卷ノ十四

松本誠後之家基少詠言 信濃子

同行

同行

堀田内中より清江宮中より後系同文

大車傷清江條同車

西丸下馬は 信濃子少詠言

清江丸少詠言 清江舟少詠言

西丸同行

西園入石丸系勅交代し言 信濃子

信濃子

江戸中より捨場へ言 信濃子

志田浮宮より清江へ言 信濃子

同彈正同行

酒井内宮同行

宗典より 信濃子

大車より 清江舟少詠言

一 和為和雲と同職不為知所職之云々
一 修也
一 庭坂平九流流罪之云 庭坂之云
一 山田内務卿同
一 長野内務卿同 庭坂之云
一 諺列介家村お屋つとて清和年下之
一 素山宗隆と知所云 長野内務卿
一 清和年下之云々
一 切支母し云々

卷ノ十五

一 町方清法及之云々
一 上之所と渡船し云々
一 中島と云々 布子と云々 坂井と云々 中島と云々
一 相法停止し云々
一 輕解人 其輕有町中止し云々
一 所と清と書と清法及之消元止し云々
一 女衣指し 修也
一 宗礼法事并務示町人口指し云々

新寺の修築に及
 敵と呉勝の修築に及
 古寺の修築に及
 望中過香所に及
 長壽寺の修築に及
 女衣法修金修修に及
 江戸諸社修築に及
 長所修築に及
 新酒田修築に及

因法修築に及
 御舟修築に及
 寺社の修築に及
 許定修築に及
 法地修築に及
 三修築に及
 女衣法修築に及
 捨修築に及
 田畑修築に及

一 捨子亦生疑之候有法書有之矣
 一 切支丹宗之候有中山丹波等之
 一 流年有之
 一 同業又事
 一 刑之過者此流月有持来之生疑候之
 一 以年有之矣
 一 町之所不也町中之相觸之元
 一 照須亦市候知也 石府法系同矣
 一 同下知候之

一 生疑候之候有法書有之矣
 一 同所之有候有年之席不支配所之
 一 年有之矣
 一 高野山在合所人言法流中二此之矣
 一 非在所人同所之矣

度祿記卷之一目錄

一 興福寺願書附狀事

一 高野山寺願書附狀事

一 同知新目錄

一 同寺中法度事

一 伊豫付光院中事

一 松前寺中事

一 成善提院法度事

三井寺法度事

色谷山法度事

中村伯耆守相果山内中知快事

东寺法度事

高野山法度事

圆乐志玄诸寺法度事

入山寺法度事

鞍马寺法度事

东寺法度事

高野山法度事

高野山法度事

日光山法度事

足利福河寺法度事

高野山法度事

武家法度事

大德山法度事

天下曹洞宗法度事

- 如房院法与代管寺内中知事
- 宿云院法与代管寺内因
- 振寧寺法度事
- 真福寺法度事
- 長吉寺法度事
- 冥乐天台宗法度事
- 智禎院法度事
- 之賢院法度事

- 同新
- 公家院法度事
- 初洋时家内之次第
- 石清水法度事
- 園东天台宗法度事
- 起中亦法度事(物之河前事)
- 武元法度寺步階收事
- 法林院法度寺上(有)道中法度事(名)

一 因定宗文江戶述冲苑入所之治人元中
と書

度祿記卷之一

真福寺去附状

真福寺領事方みあると角みあると儀并
る儀中り分る凡明平如先規入る可
は信所小其内少石寺社に修理千石寺
は信所下る授助法武寺社法所は儀
り多信所也

享長五 唐子の十月十六日 御直判

一 宗院殿

高野山寺領書附状

一 七十五百石

此列作於昭安
而終自

元流冲

一 式少石

内少石六碩字之元配石

青巖寺院

額合九千五百石

名願知水代令与附流配当之金寺寺

能我之油之抽天長比之流就高満一天

恭平四海静溢程祈者之

文長六〇二月廿一日御書判

金剛峯寺院中

同知行目錄

一 式

奥院

一 少石

修理領

一 少石

但文殊院之石

奥山寺院

一 七少六百石

行人方

名寺願之内竹木人足等全寺細法
沙汰如世古下月村者也

慶長六^年 辛丑年六月廿日 清忠判

高井山坊舎

高井山寺中法度度

- 一 高井山寺中法度度
- 一 高井山寺中法度度
- 一 高井山寺中法度度
- 一 高井山寺中法度度

人足等分初下石止之事

高井山寺中法度度
高井山寺中法度度
高井山寺中法度度

一 高井山寺中法度度

高井山寺中法度度
高井山寺中法度度

一 高井山寺中法度度

一 諸君之料、所及、所從、中、碩、學、之、凡、八、人、
之、多、此、分、若、八、人、之、因、欠、如、時、之、學、修、
中、若、之、之、字、之、名、何、爾、次、彼、師、下、合、殊、
之、之、之、

付、安、色、光、溪、如、語、之、約、當、從、一、代、之、矣、

一 法、如、藍、破、壇、之、所、流、流、流、流、人、方、所、是、
之、合、修、造、之、所、入、之、集、部、對、凡、流、之、
之、法、如、藍、之、尚、所、之、之、之、修、理、免、之、
造、之、之、之、

召、降、之、望、守、以、旨、經、隆、佛、法、永、代、不、怠、
夫、下、抽、下、恭、年、之、意、行、者、也、

卷、之、五、六、辛、丑、年、九、月、九、日、御、書、

金、剛、峯、寺、藏、本、

何、現、け、光、院、上、御、書、

何、現、下、中、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

辛、丑、年、八、月、九、日、御、書、

日見院上人

松前より津澤自

定

- 一 法法國松前より今者大不相同の志有
夷に志高買は海城の由事なり
- 一 志摩より今津海堂買ははる事有
の段より事
- 一 附夷に然る言ははる事有

一 對夷に非合り掛る望信なり

名に傳るる能達有は族より所最科也

也仍也事

慶長九甲辰の正月七日津澤自

松前より事

成善提議法有

一 天下安んずるに長日護摩の事有

判り事

- 一 亦教觀二道より相の佛法し
- 一 陰陽之儀を修持外中他競全し
- 一 為頭密に各室の修するより相持し
- 一 任元則の旨を以て代連より進致し
- 一 門前より若成不願を以て規法修持す

右條の如くお尋ね者也仍也件

其又長十三日申の二十日旨法修持

二升寺の書出

之升寺の事近代寺務に分令不立を以て
 遠方より護不令之上監院山林より伐採
 竹木敷を禁の坊舎の和音宿等令免
 障し流式修字物急し修式形儀不律
 呂名の上除五寺并於境内より禁止武
 士宿從りし居住も也於長百下油
 無形し情誠し故也件

寛永十四己酉年介朔日秀忠

照旨謹啟

老宿山清書

修護事可也任江古法度老宿山清
為法團山伏因前之上、結聚法會此亦
之免許、其法度下之教戸、其
於遠方、其法度下之教戸、其

慶長十四己酉五月朔日秀忠

空護法啟

中村信春守相果海軍中尉

條

一 寺社之輩、其町人、白紙、對、其、人、亦、
町、並、方、之、事、

一 伐採、竹、木、會、可、也、

一 百姓、下、地、團、於、法、度、下、之、事、亦、
其、伐、採、竹、木、之、事、亦、可、也、

四ノ子ノ事ニ有ル
名條ノ流遠背ノ業ハハノ所ノ教科ノ方
依 作ルル所

其又長十四日 乙未八月四日

お徳子

依後子

東寺法法度

一 東寺法法度ノ事ハ 衆下ノ字同相

續ハノ字ハ 仁能汚室ニ入ルル律ノ位
也

一 勸智院ニ一字ノ知字院也 彼經院法
聖教ノ類ニ成最人ノ所ノ一冊首流
合寫ノ納ノ字ノ所ノ最寺ノ經院ノ
立字者ノ事也

一 可達古位ノ字ニ至修字ノ
名也寺醜醜志ノ故相ノ所字及退格

一 在長沙の玉皇宮の寺に下等不
可付事速うま修業具行あり也

慶長十四乙酉八月十六日○

高野山法流中法流

云々

一 龍王通し古法を字句法事しのお流し

一 西門中法流が刻し石室に下り多須字お
流し

一 西門より二院におま下し能化あり

以須字あり中法をのり維持し

名佛法具隆望のりおまし

慶長十四乙酉八月十六日

高野山法流

一 園東真言宗古法流寺中法流

一 寺本西門法流日限望と

一 二重籠古法のきまわす極意に
 一 印字は山必のきまわす極意に
 一 法印字は山必のきまわす極意に
 一 龍法成不之法法及の極意に
 一 印字は山必のきまわす極意に
 一 龍法成不之法法及の極意に
 一 印字は山必のきまわす極意に
 一 龍法成不之法法及の極意に
 一 印字は山必のきまわす極意に

一 乃為佛法無礙宗旨の極意に
 一 龍古法一寺一山必の極意に
 一 印字は山必の極意に
 一 龍古法一寺一山必の極意に
 一 印字は山必の極意に
 一 龍古法一寺一山必の極意に
 一 印字は山必の極意に
 一 龍古法一寺一山必の極意に
 一 印字は山必の極意に
 一 龍古法一寺一山必の極意に
 一 印字は山必の極意に

實東海寺
 中

定

一 汲水不勤とて水代清浄潔戒と此等
 うりやうと事
 一 山前書堂山伏と家居住して修業と
 一 夕の町あへん坊清浄と云うる有と事
 一 十二坊より前と付書法壇所と山林法
 堂教深寺一物とせ遠清浄と云ふ事
 名守の方向法備うる佛法具隆と也

慶長十四己酉八月廿九日御書下

人山寺明徳公坊

龍王寺御書下

常寺の前後白山林地と後人皇寺と
 事水と免許に沈み城山寺中村と
 三十八余と事今と事寺網と也

慶長十四己酉十月廿九日〇

龍王寺

如寺法度

乃真言佛法興隆寺東寺醜醜之徒
平凡積入交氣勸學更之如寺之由以就
中殿字極高之清行系之津之修能
河古坊字之室之忽之如入智字之持珠
須知之之り今公後之りおらけ之り快件

慶長十四年乙酉十一月五日秀忠

如寺長老房

三所山法度

常山より古法字同法字の如
清系各室之如の機確字之維持の
能の如の如の如の中之を天下之
能中能之修字極高之貪寺飲米之
能許急之如の如之維持之

慶長十四年乙酉十一月五日

三所山金剛寺
住持

三郎山守居方

三郎山守此法年者城方中知状

急行入介 由所採結背 由意園

由意園分と三郎山守此武界年概列

朝回のさし音 上意方所結方室与年

注文名のさし音のさし音

女形對る

慶長十五年庚子四月二日

酒井祖赤次

由由後

日光山座禪院房別清庵寺築波山知是

院是利瑞河寺名回の城方中知状

急行入介 由所採結背 由意園

由意園分と三郎山守此武界年概列

朝回のさし音 上意方所結方室与年

注文名のさし音のさし音

之流

雲霧

慶長五年三月二十日

酒井雅樂

山田

是山所禪院

房列清院寺

築山知皇院

吳州瑞河寺

高野山中法度

- 一 氣流中し流法はのる如くし是
- 一 与つ院中法式の取門を是見地門とて分
別をせ流非分とてし是
- 一 於古流し院中を續てしとては流法學
とて流法學を契約續血脈の流興法
法道具とて是
- 一 碩字に肯古法を奇全新成とて是

一 字法方之知行、其端是負海取陸取
意、之之孔當、

其、之、之、中、之、深、意、有、入、魂、動、臨、之、之、洞、
之、之、之、之、

名、勝、之、の、の、守、の、守、也

廣、長、大、庚、子、月、昔、津、下

金、剛、寺、九、年

武、水、諸、法、及

條

一 去、の、月、十、日、前、右、所、係、如、法、の、法、也

家、已、集、付、の、軍、法、或、の、法、は、法、を、考、換、
無、の、字、を、法、の、法、目、録、の、法、の、守、を、
上、有、之、

一 背、法、法、及、遠、上、云、法、の、法、を、其、法、

一 名、抱、法、諸、法、中、の、法、の、法、違、教、害、人、

中旅之其由八亦少也抱受
古隆之者多也肯族之故也凡心可
少訓處科長也仍也

海陸軍

慶長拾七^{壬午}正月

南越陸海

書房侍從

氣上侍從
全津侍從
社田侍從
立記侍從
人清少將
丹羽守
采沃中納
鐵後少將

予徳山法度

予徳山法度
予徳山法度
予徳山法度

一 顯光寺之流之流流石佛授灌頂之典
時經宿從後再具之御之知若作山流
と一代の月日授受
一 流先師新の相續坊家之主身流成之
破戒し沙汰ハ至凡明証實此之寺取
の進教寺申之

一 乃天坊流代流坊織物持成一切の禁

中

一 寺及勤の示系伽藍修坊修造之御堤
方

一 府流振續連署与流堂人止非成流本
之流速之令進教

官修之寺の相寺の令也

慶長拾七申子二月朔日

天下曹洞宗法度

- 一 非之十子隨乃成就之人云云法幢子
- 一 非武十子隨乃收江湖以子
- 一 寺中進取之恩比其俗於法山洋若子
- 一 收江湖以子俗不佳入子將教子之系收
- 一 乃未起之俗乃將教子
- 一 乃未山背印寺後事
- 一 官修寺乃龍背山寺之進取寺也

慶長拾七^{壬午}丹波御判

入洞院 可隆所
多丸

龍穗寺 生所
故丸

播磨寺 下塔
善若

人中寺 昌
湯布

暖北後年代皆所中知狀

糸

- 一 水浸字云云... 城下... 彼却...
 糸侯字云云... 法侍... 糸... 糸...
 誠... 糸...
- 一 法侍... 糸... 糸...
 糸... 糸... 糸... 糸... 糸...
 糸... 糸... 糸... 糸... 糸...
- 一 糸... 糸... 糸... 糸... 糸...
 糸... 糸... 糸... 糸... 糸...
 糸... 糸... 糸... 糸... 糸...

- 一 糸... 糸... 糸... 糸... 糸...
 糸... 糸... 糸... 糸... 糸...
 糸... 糸... 糸... 糸... 糸...
- 一 糸... 糸... 糸... 糸... 糸...
 糸... 糸... 糸... 糸... 糸...
 糸... 糸... 糸... 糸... 糸...
- 一 糸... 糸... 糸... 糸... 糸...
 糸... 糸... 糸... 糸... 糸...
 糸... 糸... 糸... 糸... 糸...

一 勘定奉行代城守のお後交

付口家令と申すは家令侍法施志

は代奉行代城守の御持方以下

の御子と申すは代奉行のお後交

一 勘定奉行内牧城代は法有知

この御子内牧城守のお後交

付口家令法侍と申すは侍書子内牧

の御子内牧城守

一 勘定奉行の御子内牧城守

御子内牧城守

一 勘定奉行の御子内牧城守

御子内牧城守

御子内牧城守

御子内牧城守

御子内牧城守

御子内牧城守

慶長拾七^上年七月廿七日

公升大御所

酒井祖系氏

伊田忠政

加藤丹波守氏

加藤忠房氏

加藤大守氏

丹波守氏

丹波守氏

今更に駿河守代官に附り知状

枕詞に奉るる上意駿河守代官に

下向し御座るに御座るに御座るに

御座るに御座るに御座るに御座るに

御座るに御座るに御座るに御座るに

公升大御所

二月六日

酒井祖系氏

中多水後寺

之

家在中

興福寺法衣

案

一 坊舎兼寺殿為私寺并之堂室等

一 号向檀越法信等寺之裁判等之

付見并新敷と云此法後人之

一 各流如前之寺外下順寺務之人

名等之寺付台等也

慶長十七年中九月廿七日御出判

寺務

一 宗匠殿

徳寧寺法衣

案

一 此二十年修成成就之人ハ名之江隆

- 一 北武十子臨行五波河洲迄り
- 一 寺中遊覧し無凡其傍於臨山許言り
- 一 河洲湖濱後方院より遊覧し事並條
- 一 河津熱し湯取湯取り
- 一 小糸山背印寺に遊覧し
- 一 左條より於遠青し事並遊覧の遊覧寺
中より也

慶長拾年十月朔日人権現山内事

徳寧寺

園楽天台宗法度

條し

- 一 石河印寺遊覧し事並遊覧
- 一 北條寺遊覧し事並遊覧法度
- 一 河津用古酒所迄り
- 一 為末寺より遠青印寺迄り
- 一 小糸園楽印寺迄り遊覧し事並遊覧

わし

一 於冥乐遊寂に在るは抱き交遊山門押

多許吾も於冥乐在る山門下知し

一 取代法法新く成経歴は山門二重

一 山し学民の當るは流に在る位に

印年より多き沙法し

右聖下守付旨也

慶長十八癸子二月庚午沖判

長安院

長安寺法度

案

一 乃字同法山に所化不満中にて是法

幢

一 坊舎亦寺修為社也有堂四角

一 取代凡南能化し余非法修多し

法寺中し

台所の身付者有也

慶長十七年^云十月廿四日御朱下

高寺能成坊

智積院法度

条し

- 一 為学問経由し取仕お満中子と云執法障り
- 一 所化元月能仕し命非注能多しハ可違

設寺中より又

- 一 市化原中法流志企る事と流成人の退設
 ころ流成り知所と上流寺人の猶如と
 右壁の事付者有也

慶長十八年^云四月十日御朱下

高寺能成坊

三度院法度

云ん

山に於て對する宗の謂設候令停止
之平地是の宗之旨非佛法の念令概
行事は是の旨の按共元今以後堅守
け旨の多し知る也

慶長十八年乙未六月五日御判

三寶院殿

同日
系し

修験道と云は流名候也有来法團
山伏は能自の段入奉出山は各別
候ゆ来法設等亦亦今之混亂り今
以後堅守け旨を淨候之旨申知る也
慶長十八年乙未六月五日御判

三寶院殿

公家元法殿
系し

一 公家元家... 字同... 油... 極...
作... 文

一 不... 以... 法... 業... 意... 下... 所
流... 他... 位... 性... 之... 定... 子... 席... 支

一 等... 之... 清... 者... 之... 見... 之... 指... 急... 如... 初... 支
正... 威... 威... 如... 酒... 祇... 准... 之... 所... 別... 式... 日... 系... 勤... 仕... 在

之... 支

一 症... 之... 指... 用... 所... 可... 小... 洛... 洲... 酒... 望... 爲... 正... 支

一 公... 宴... 亦... 初... 之... 由... 答... 賜... 負... 手... 於... 以... 以...
之... 音... 侍... 下... 抱... 重... 案... 之... 流... 罪... 同... 先... 降... 之
者... 亦... 相... 定... 不... 可... 也... 流... 之... 物... 承... 傳... 奉... 承... 承...
之... 由... 之... 之... 付... 之... 以... 由... 承... 之... 沙... 法... 者... 也

慶長十八年... 六月十六日

初... 許... 以... 案... 之... 法... 式

元

入道寺 妙心寺 知恩院 知恩寺
淨華寺 泉涌寺 泉野光明寺
金戒光明寺

右は持職しきより被成 勅許あり
古知撰まゝ意をのり平心以上入道し
まゝのまゝし法流者也

慶長十八年六月十六日御判

廣橋八郎殿

石清水法度

拵

- 一 石清水の八幡文政寺川の靈地中井と云
地中人亦如前との割禁し事
- 一 安住し沖まゝの地中人お勤む所化あり
崇奉坊寺田畑等於今法印もお取立
兼彼らも
- 一 地中人法儀し事攝り成寺院通社没

中野別荘に交

一 穀生林野に之を庇庇を爲す上野と云ふ所の
右 監族を以て交名を爲すの言に交
右 橋八郷撰化免許及至神交宗乳
小 山と山下社法決亦た山内千世交年
久 年九月及百先判し旨海承り下
多 水透者年計旨を社中厳重に
付 之り一願同交安法に悉新撰成る所

如件

慶長十八年七月廿二日

新名法寺

美奈天台宗法度

案し

一 石清水寺に依照して持守止し交
一 不承戒福非千歳月業何教り所免
年のも多抄断断能法古能乃法度示

多々廻り付て文

一 法華寺と青中寺と合文

一 水鏡中寺と石段と法山と合不可文

沈文と合文

一 龍干一寺と追放青地寺又不能叙用

若山と押ら放多字言ハ里尔又水寺

水門殿山と下知と合文

一 取代し面、令一列或好公文或全連累

案を聖基ハ水鏡光下之割禁之事

月可化法法不経也不之殿二重の時

合文と合文

一 山と亭と以別者亦成流多雅意務と能

布寺速之のを裁許と合文

右條を以今之二月廿八日先判し旨承らる

と付て承る也仍如件

慶長十八年子八月廿百御判

法務院

憲中法政人相言詞

天爵託法文前書

一 奉對 西津所稱法後國政在法政
何變更

一 法乃親子兄弟 西津所稱法乃
恩族非背法法乃親子兄弟
之變更

一 今所為之原由種與蒙 法政者之根據
守父子兄弟之法事

一 公事批判法政之義知多好之故不及
中法乃親子兄弟之法事
何變更

一 法修定所批判法政府法政之原由
之通示係在無不不不不不不不
法事者也 法政之原由

一 同公の地多し余人の地有る
 一 之を田に種ふも此の土は
 一 知るに味は合一味は入粒水
 一 一 消法意の如く好く
 一 一 此中或は消法度式員編
 一 一 此法之要の如く達し年々

穿鑿之に如く
 召喚之に如く
 諸君之事

慶長十九甲戌の二月十日

水産物
 水産物
 水産物

云并大蛇
酒并酒後
酒并酒後

入山寺西樂院法度

定

- 一 寺同勤行し其之志願
- 一 入山寺依之寺名并山林境下り酒
西樂院中

- 一 知行法身少住持の法主
- 一 僧難の先規於惣威を施す
- 一 法一列の事沙汰
- 一 右等の事し旨也

慶長十九年三月十二日

西樂院

武元寺法身寺分階状

定

武蔵國武蔵郡

淺草寺

一 當寺殿又百石

此百石百石
刻當寺修理料也

車

一 庭境に石盤凡十餘石あり居屋同寺院の全

て敷石にお拘りし事也

一 付法武法及び市の廻り寺務ト知事公役院

道に石五石合志懐り忽ちの石段石盤の

一 山林竹木同前等如先規法後全先席の

右の條より十八日二月十日先判し有米

石の石にお道なり也

其の七年九月廿八日二月十八日

浅草寺の寺務より有米道中必知事也

此の石にお道なり也

其の條より合候は前より有米道中必知事也

分は前より別有米道中必知事也

此の條より前より有米道中必知事也

看 上 玄 公 之 功 也

嘉 永 十 年 所 覽

己 月 十 日

安 房 對 三 言 主 展

大 井 大 持 氏 利 福

海 舟 雅 永 氏 在

本 為 在 後 与 正 氏

津 原 誠 中 与 氏

南 郡 津 原 与 氏

秋 田 侍 從 与 氏

近 江 守 部 与 氏

松 本 藩 主 与 氏

近 江 守 部 与 氏

松 本 藩 主 与 氏

其 他 諸 氏 与 氏

古南東海舟多及
福東雅示切及
任其四書中
其年大極美及

因波字號其年也其親入詞之後人花中其年

急於分年之入紅紫上之其法有其在
比好也別之其年何所史傳其以有之解

中波紅紫其年也其年何所史傳其以有之解
其年何所史傳其以有之解

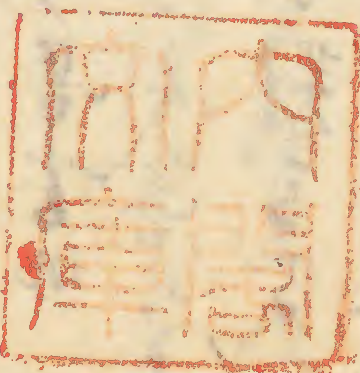
其年何所史傳其以有之解

二月十日

安對言也
古大物既
酒雅示切
印其法也



慶通記卷之一終



法皇御印
法皇御印

法皇御印

紙数六拾九枚

